



竹 島 直 樹
(柊の会)

上下水道の耐震化の状況は

管路更新により耐震化を図る

問 避難所や災害拠点病院などの水道管路と下水道管路、ポンプ場の耐震化の状況は。

答 市の重要施設に接続する耐震化率は、水道管路89%、下水道管路6%、下水道ポンプ場100%です。耐震化率の低い下水道管路は、今後更新時期を迎える管路の更新により耐震化を図るとともに、被災時は市保有の仮設ポンプ等の資機材を使用した対応や協力会社による汚水運搬処理等を定めた下水道事業業務継続計画により、下水道機能を維持していきます。

問 旧十和田市立新渡戸記念館譲与後の館内資料の所有権確認作業の進捗状況は。

答 10月15日に改めて確認作業の申入れを行いました。新渡戸氏からは、市との所有権確定作業は終了したとの認識で、所有権の根拠として占有権を主張する回答がありました。新渡戸氏に対し、市の考えにご理解いただくよう引き続き申入れを行うとともに、今後弁護士と協議し、法的な措置も検討したいと考えています。

問 令和6年5月1日、2日の国立印刷局東京工場視察と環境省表敬訪問が市ホームページの市長の日程に載っていないのはなぜか。

答 市長の公務日程は、行事の主催者側で報道機関に公開していること、取材対応が可能なことなどを踏まえ、公表可能かを判断する運用をしていました。当該行事は、視察及び表敬訪問に際し事前登録が必要で、取材対応が可能な行事ではないと判断し非掲載としました。しかし、透明性の高い公正な市政運営のためには基本的な取扱いを明確にして運用すべきとし、他市の状況も調査しながら取扱方針を整え、10月1日以降の行事等から新たに運用しています。



小笠原 良 子
(日本共産党)

高齢者の補聴器購入費助成を

上北圏域と連携し

国・県へ要望を継続する

問 高齢者の補聴器購入費を助成する考えは。

答 地域格差なく支援を受けられることが望ましいと考えているため、上北圏域と連携し、国、県へ助成制度の創設を要望しています。市独自で助成する考えはありませんが、引き続き、国や県に要望していきます。

問 高齢者への無料聴力検査制度を創設しては。

答 聞こえに関心を持ち、聞こえにくさに気付くためのセルフチェックの必要性を市広報や集いの場などで周知したいと考えているため、新たな検査制度の創設は考えていません。

問 既存の公共施設は、「音が響いて聞き取れない」との声があるが、改善する考えはあるか。

答 現在、音響環境に関する具体的な苦情や要望は届いていないため、改善予定はありません。

問 音楽活動を支援するため、閉校した学校等を活用し、音楽施設にしたいはどうか。

答 既にミニコンサートなどが実施可能な場所が複数あるため、新たな施設は考えていません。

問 近年指摘されている奥入瀬溪流の流れの変化について、現状を把握しているか。

答 降雨量や倒木等、多様な要因が想定され、自然現象の範囲内の事象と理解しています。

問 市が行っている環境調査の目的と現状は。

答 今年度から、「十和田湖および奥入瀬溪流」の保存活用の課題を明らかにすることを目的に下層植生の踏み荒らし状況調査と、奥入瀬溪流の土砂堆積状況調査を実施しています。市では、この結果に基づき、県や関係機関と連携し保全に努めるとともに、令和9年度に策定を予定している新たな保存活用計画が、今後の適切かつ有益な指針となるよう取り組んでいきます。